

第12回 BELCA賞

BELCA ではこのたび、第12回 BELCA 賞の表彰物件（10物件）を以下の通り決定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、表彰式は来る平成15年5月15日（木）16時より、東京都中央区日本橋蛸殻町のロイヤルパークホテルで開催されます。

第12回 BELCA 賞表彰物件

ロングライフ部門

（五十音順）

	物件名	所在地	竣工年 (改修)	用途	所有者	設計者	施工者	維持管理者
1	飯野ビル	東京都千代田区	1960	事務所	飯野海運(株)	株竹中工務店	株竹中工務店	イイノビルテック(株)
2	中近東文化センター	東京都三鷹市	1979 (増築)1989	博物館・研究所	財出光美術館	岡田 新一	鹿島建設(株)	財中近東文化センター
3	南山大学 名古屋キャンパス 本部棟・第一研究棟、G棟 G-30棟、H棟	名古屋市昭和区	1964	講義室、研究室、 事務棟	学校法人 南山学園	株レーモンド 設計事務所	清水建設(株)	南山大学
4	日清製粉株式会社 鶴見工場 工場本館	川崎市川崎区	1925	製粉工場	日清製粉(株)	清水建設(株)	清水建設(株)	日清製粉(株)
5	三井物産本店ビル	東京都千代田区	1976	事務所	三井物産(株)	株日建設計 株武藤構造力学 研究所	鹿島建設(株) 三井建設(株) 大成建設(株) 株竹中工務店	物産不動産(株)

ベストリフォーム部門

（五十音順）

	物件名	所在地	竣工年	改修年	用途		所有者	改修設計者	改修施工者
					改修前	改修後			
1	茨城県立図書館	茨城県水戸市	1970	2000	県議会 議事堂	図書館	茨城県教育委員会	茨城県土木部 営繕課 株日建設計	株竹中工務店 株昭和建設
2	上越市市民プラザ	新潟県上越市	1985	2000	商業施設	文化施設	上越市	株熊谷組一級建 築士事務所	株熊谷組
3	新大手町ビル	東京都千代田区	1959	2001	事務所	同左	三菱地所(株)	株三菱地所設計	清水建設(株) 株関電工 株弘電社 新菱冷熱工業(株) 株城口研究所 日本建鉄(株)
4	新風館	京都市中京区	(第一期)1926 (第二期)1931	2001	電話局	物販飲食店舗	NTT 都市開発(株)	株NTT ファシリ ティーズ リチャード ロ ジャース パー トナーシップ ジャパン	清水建設(株)
5	ピーエス株式会社 オランジュリ	熊本県熊本市	1919	2001	銀行	オフィス・ ショールーム・ 情報センター	ピーエス(株)	トーベン・ビン ドネス 他	株サンワ工務店 株伍代建設

BELCA 賞の概要

BELCA 賞は、適切な維持保全を実施したり、優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なものの関係者をロングライフ、ベストリフォームの2部門により表彰し、もって良好な建築ストックの形成に寄与することを目的に設けられた、我が国初の既存建築物の総合的表彰制度です。

BELCA 賞は平成3年に創設され、今回の表彰が12回目となります。

受賞者には(社)建築・設備維持保全推進協会会長より表彰状が贈られ、また建物所有者に対しては、文化勲章受章者・文化功労者の彫金作家帖佐美行氏の手による賞牌が贈呈されます。

表彰の種類として、ロングライフ部門とベストリフォーム部門の2部門が設けられています。

ロングライフ部門は、建築物のロングライフを考慮した適切な設計のもとに建設され、長年にわたり適切な維持保全が実施され、建築後20年以上を経過した建築物のうち特に優秀なものを表彰するものであり、ベストリフォーム部門は最近改修され、その改修により画期的な活性化が図られ、改修後1年以上を経過した建築物のうち特に優秀なものを表彰するものです。

なお、受賞者はロングライフ部門については、建物所有者、設計者、施工者、維持管理者の四者であり、ベストリフォーム部門については建物所有者、(改修に際しての)設計者、(改修に際しての)施工者の三者です。

また、過去の主な受賞物件と今回の表彰物件まで含めた受賞数は以下の通りです。

ロングライフ部門・・・世界平和記念聖堂、三井本館、服部時計店、国立劇場
日本生命日比谷ビル、在日米国大使館大使公邸、経団連会館
伊予銀行本店、丸石ビルディング、立教学院諸聖徒礼拝堂等58物件

ベストリフォーム部門・・・大阪マーチャンダイズ・マートビル、南座、霞ヶ関ビル
神戸郵船ビル、水の科学博物館、横浜市大倉山記念館
品川女子学院、聖路加国際病院1号館・トイスラーハウス
大和銀行虎ノ門ビル等58物件

第12回 BELCA 賞選考委員会

委員長	内田 祥哉 (東京大学名誉教授)
副委員長	内井 昭蔵 (滋賀県立大学環境科学部教授)
	(平成14年8月3日 ご逝去)
副委員長	三井所 清典 (芝浦工業大学建築学科教授)
副委員長代行	清水 重男 ((株)三菱地所設計取締役副社長)
委員	五十殿 侑弘 (鹿島建設(株) 常務取締役 建築設計エンジニアリング本部副本部長)
〃	木村 信也 (エヌ・ティ・ティ都市開発(株) 代表取締役常務 ビルサービス本部長)
〃	佐々木 恒己 (新菱冷熱工業(株) 取締役都市設備事業部長)
〃	中島 修一 (ダイケンエンジニアリング(株) 常務取締役)
〃	永原 昌平 ((株)石本建築事務所 専務取締役)
〃	藤縄 正俊 ((株)大林組 常務取締役設計本部長)
〃	山端 良幸 (日本電設工業(株) 常務取締役) (順不同・敬称略)

第12回 BELCA 賞選考総評

BELCA 賞選考委員会委員長 内田祥哉

BELCA 賞は、適切な維持保全を実施したり、優れた改修を行った既存の建築物のうち、特に優秀なものの関係者をロングライフ、ベストリフォームの2部門により表彰し、わが国における良好な建築ストックの形成に寄与することを目的に設けられた。

平成3年よりはじまったBELCA賞は、これまでに11回、合計で106物件の建築物の関係者を表彰し、今回の表彰で第12回を迎えることとなった。

BELCA賞の知名度も年々高まり、少しずつではあるがユニークな賞として評価をいただいていることから、第12回のBELCA賞も全国から多数ご応募をいただいた。

前回から、表彰物件数を「各部門5物件以内」から「両部門合わせて10物件以内」としたが、選考の結果、今回もロングライフ部門、ベストリフォーム部門それぞれ5物件、合計10物件を第12回のBELCA賞として表彰することとなった。

両部門の応募物件のレベルが拮抗していることの証左とも言えるだろう。

ロングライフ部門で表彰する5物件については、事務所、博物館、学校、工場と幅広い用途の物件が選ばれており、二十年以上にわたって関係者が不斷の努力で維持保全に努めてこられた優秀な物件ばかりであり、「建築物の長寿命化」という今後われわれが取り組まねばならない課題に対し、答えが与えられるものと期待している。

一方、最近では建築物の用途を変えて活用しようとする「コンバージョン」が大変注目され、リフォームやリニューアルへの関心がますます高まっている。このため応募物件のレベルも高く、ベストリフォーム部門は激戦となった。五つの表彰物件はこの中から選ばれた優秀なものばかりであり、リフォームに関し新たな知見や手法を提供している。また、今回はPFIの手法を用いた物件もはじめて受賞し、世の中の動きを反映している。

過去の受賞物件を見ると東京が圧倒的に多く、関東地方で過半に迫るほどで、今回もその傾向は変わらない。しかし、関東の中で、これまで表彰物件のなかった茨城県に初の受賞物件が出たことを喜ばしく思っている。今後も、BELCA賞の全国への更なる浸透を期待したい。

今回表彰される物件が、わが国の優良な建築ストックの範となるものと確信しており、受賞物件の関係者に対し、深く敬意を表したい。

また、BELCA賞の発展が、わが国の良好な建築ストックの形成に寄与することを願うものである。

なお、今回の選考に入る直前、内井昭蔵副委員長が急逝された。選考は三菱地所設計の清水委員に副委員長代行をお願いすることになり、無事に選考を終えることができた。内井氏のBELCA賞に対するご貢献に心から感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げたい。

第12回 BELCA 賞ロングライフ部門選考講評

BELCA 賞選考委員会副委員長 三井所清典

第12回 BELCA 賞選考委員会は前回に引き続き、終始ロングライフ部門とベストリフォーム部門に分かれることなく、両部門の物件を全員で審査した。改修や増築、空間のフレキシブルな変化や一部の用途変更などが加わってくると両部門の境界は必ずしも明確でなくなる。部門の属性に関しては原則として応募者の申請を尊重して審査を進めていった。

今回は2次の現地審査を終えた後も、属性について問題となるものはなかった。その中でロングライフ部門に輝いた表彰物件は以下の通りである。

「飯野ビル」は竣工以来、日比谷公園の緑に連なる白い颯爽とした姿が印象的で、イイノホールは多くの人に知られている。また地下の充実した商店街、地下鉄との直結などが利用しやすいビルとして多くの人に親しまれてきた。バランスの良い耐震壁の堅牢な構造は、今日も十分な耐震性を有している。外壁の清掃や時代の要請に応じた設備機器の更新は計画的に実施され、エネルギーの削減にも効果をあげている。ビル所有者、管理者、施工者が定期的に会合し、「ゆとりをもったビル」、「荘重なモダン」といった当初の設計思想をよく維持している。

「中近東文化センター」は静かな住宅地の、緑の多い大学構内に隣接し、地上2階、地下1階の落ち着いた佇まいの建築で、周囲の環境とよく調和している。施設には博物館機能を備えており、要請により、これまでに増築も行われているが全く違和感がない。現在の耐震法以前の建物であるが、施設の重要性の認識から耐震性の高い設計がなされており、さらに増築を巧みに活かして耐震性を高めている。周辺環境、利用者の質、資金面や設計上の支援など建物の維持保全上、恵まれた施設である。

「南山大学名古屋キャンパス」は小高丘陵の屋根と斜面を最大限に活かしたいわば自然共生型の大学であり、豊かな緑の中で学園生活が送られている。日照、通風を享受し、強い日差しを制御するルーバーは立面を引き締めると共に外壁を守る役割を果たしている。初めから設けられた尾根地下の共同溝は、今日までのさまざまな設備の更新に寄与している。設計の高い質と日常の手入れの良さが施設を経済的に長持ちさせている好例である。

「日清製粉株式会社 鶴見工場工場本館」は関東大震災の翌年の施工で、工事中に震災に見舞われている。竣工後も粉塵爆発と戦災の二度の災難に対する復旧工事や、その後の床補強工事、耐震改修工事、阪神大震災後は、それを踏まえての耐震改修工事と幾度も手を加えながら、構造体を76年の長きにわたって維持している。さらに地盤の液状化に対する工事も既に計画されている。また、ここでは産業機械も省エネルギー化を計りながら、よく長持ちさせている。所有者、維持管理者の中に「手入れをして使いつける文化」がよく生きている。

「三井物産本店ビル」は、皇居のお濠側に設けられた池と茂みに毎年カルガモが育つことで親しまれている。建物はシステム建築として設計され、近代的なオフィスビルのプロトタイプといえる。すなわち3.2mのモジュールが建築と設備の計画全体にいきわたっており、時代の要請に応じて変化できるように構成されている。天井照明や床のタイルカーペットは維持メンテナンスシステムが、ディテールに裏付けされ設計されている。維持保全計画と長期修繕計画が作成され、当該年度は詳細維持保全計画のもとに実行されている。これらは建設当初からの設計者、施工者、管理者が参加した計画であり、関係者の努力は高く評価される。

ロングライフ部門で表彰された建物は、その用途も、歴史も環境もさまざまであるが、いずれも建物の所有者や利用者に愛され、親しまれているものであった。いずれも設計者、施工者、維持管理者が建物の所有者に尊重され、維持管理計画の作成と実施に参加し、改修や更新など手を入れる場も、当初の設計思想が守られているものばかりであった。

第12回 BELCA 賞ベストリフォーム部門選考講評

BELCA 賞選考委員会副委員長代行 清水重男

今回の BELCA 賞の選考の特徴は、ロングライフ部門と、ベストリフォーム部門の区別を選考の時点では区別せず、選考を行ったことである。これは、従来、応募作品のなかに、どちらの部門で評価すべきか、判断に迷う作品が時々見受けられた事への対応として考えられた事である。

ベストリフォーム部門での応募はロングライフ部門を大きく上回る数であった。

これは最近の経済情勢の影響もあり、また環境への配慮の関心が高まった結果、建築の歴史的な価値に対する認識が高まった結果ではないかと考えられる。

応募作品はいずれも甲乙つけがたい作品が多く、書類選考の結果と更に現地審査を経て最終的には委員の皆さんの討論を経て5点を受賞作品として選定した。ロングライフ部門と結果的に受賞作品が同数となったのは、全くの偶然である。

「茨城県立図書館」は水戸市三の丸にあり、かつては県の行政地域の中心的な役割を担ってきた県会議事堂を県立図書館として再生したものである。議事堂としての空間特性を図書館という全く異なった機能へ、違和感をもたらすどころか、むしろ当初から図書館のためにしつらえられたのではないかと錯覚させるような再生が高く評価された。

「上越市民民プラザ」は新潟県上越市が竣工後10年を経過して移転した2階建てのスーパーマーケットの土地を購入し、建物を無償で引き受けて市民プラザとして再生、2001年にオープンしたものである。通常ならば、取り壊されてしまう運命にある不用になったスーパーマーケットの建物を PFI プロジェクトとして、市、市民団体、民間企業が一体となって市民のための利便施設として、生き生きと蘇らせたことは、スクラップ＆ビルドの風潮に再考を求める好例として評価された。

「新大手町ビル」は昭和37年に竣工したオフィスビルで、既に竣工後40年を経過しているが、更に現代のオフィスビルとして生き続けるために改修を行ったものである。改修の特徴としては外装の改修と同時にペリメーター空調のための配管を外部に付け加え、主に外壁側に改修工事を集中させてテナントへの影響を極力抑えて工事を完了したことが評価され、旧外壁面を新しいカーテンウォール越しに僅かに見せるなど、過去の記憶をオーバーレイさせる事で既存の建物への配慮も感じられる作品である。

「新風館」は、吉田鉄郎氏によって設計された京都中央電話局を専門店集積型商業施設として、再生させたものである。歴史的景観保存の目的で残された鳥丸通りに面する重厚な建物に、敢えて近代的な軽快なデザインを採り入れることにより、建物に伝統と革新をバランス良く表現している。旧電話局の高い階高を二重床等を巧みに取り入れて増築部分の表現のオリジナリティとしている事も評価される。

「ピーエス株式会社 オランジュリ」は大正8年に熊本市内で銀行の支店として建てられた建物であるが、その後いくつもの持ち主を経て生き残った。現在、有形文化財にもなっている建物であり、ロングライフ部門としても十分評価される建物である。その建物を現在の持ち主である空調設備機器のメーカーが、自社のオフィスとショールームとして建物全体を使って見事に再生させた意義は誠に大きい。

ベストリフォーム部門の審査に当たっては、改修の結果、元の建物の良さを充分活かしながら、現在に相応しい機能に生まれ変わっているかが審査のポイントとはなったが、建物をきちっと生かして行くしっかりした維持管理体制ができているか、また地震等の災害に対して改修の際十分な配慮が払われているか等が審査の項目となった。惜しくも選にもれた作品にも大変立派なものがあったが、機能的なリフォームとしては素晴らしいが、耐震への考慮や管理体制の不備等で惜しくも選に漏れたものもあった。

リフォームの意義は現代のニーズに合わせて古い建物を蘇らせるだけでなく、次の世代にその成果を更に引き継いでゆくことではないか考える。